

高校教育フォーラム  
実践レポート①

# 能代高校のキャリア教育を振り返る

秋田県立能代高等学校  
教諭 吉田英亮  
平成28年8月7日

## 能代高校の概要

秋田県能代市に所在（地区のセンタースクール）

大正14年開校、創立91年目

普通科5クラス、理数科1クラス：学年235名

校訓「至誠力行」、校是「文武両道」

目指す学校像

**「すべては生徒の幸せのために**

**～夢と志をはぐくむ学校を目指して～**





## 平成28年度入試合格実績

### 国公立大学 88名 (進学：82名)

推薦・AO	25名
前期	55名
中期・後期	6名
独自	2名

東北大2、**秋田大17**、北海道教育大2、弘前大5  
 岩手大8、山形大4、宇都宮大4、埼玉大2  
 新潟大6、金沢大2、**秋田県立大7**、国際教養大1  
 高崎経済大1、静岡文化芸大1、山梨県立大1

### 私立大学 258名 (進学：98名)

早稲田大1、慶應義塾大1、立教大1、中央大2、法政大3、東京理科大1  
 日本大5、東洋大12、駒澤大4、専修大3、獨協大6、文教大7  
 同志社大2、立命館大1、東北福祉大19、東北学院大15、東北医科薬科大3



## 最近の進路傾向

### ■ 根強い国公立大志向

▷ 入学時点で8割以上が国公立大学を志望、「とりあえず国公立」

### ■ 強まる「地元志向」「安定志向」「資格志向」

▷ 秋田大学希望者の増加。各学年50名程度。「とりあえず秋大」

▷ 相変わらずの教員養成系・医療系人気。「とりあえず教員・看護師」

▷ 早い段階で志望を下げる生徒が増加傾向。「とりあえず入れる大学」

### ■ 就職希望者の倍増（進路の多様化）

▷ ほとんどが公務員志望者。1年次から25名程度。

▷ 能代高校で就職という選択肢。「とりあえず公務員」



- **キャリア教育導入の経緯**
- **能代高校のキャリア教育「Will Project」**
- **「Will Project」のその後**
- **「Will Project」を振り返る**

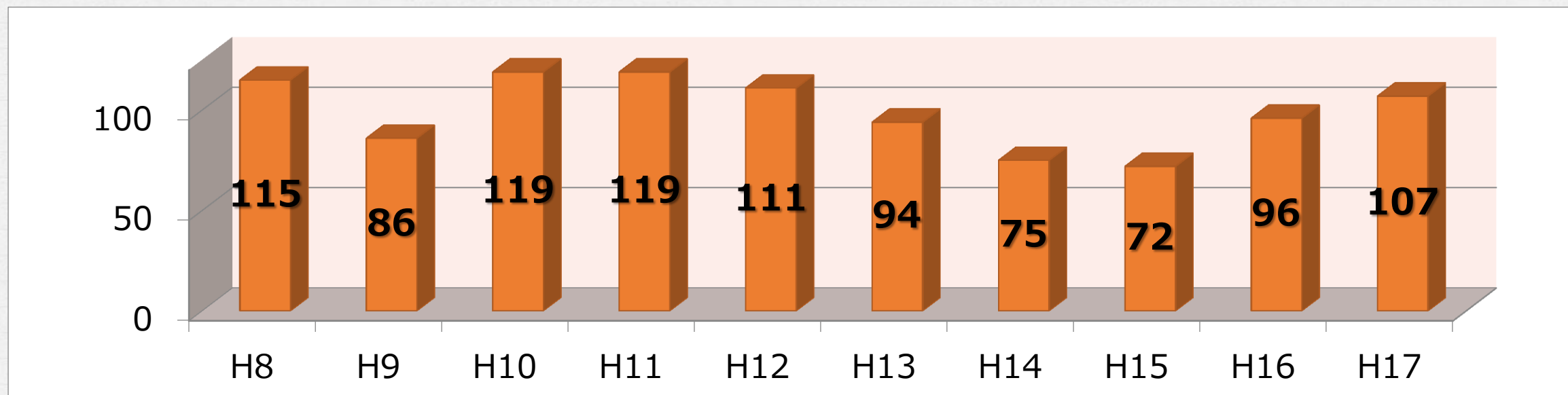


# キャリア教育導入の経緯

平成18年度策定／平成19年度から実施

## 国公立大学合格者数の推移

	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
卒業者数	318	289	288	271	278	293	286	262	283	274
<b>国公立大合格者数</b>	<b>115</b>	<b>86</b>	<b>119</b>	<b>119</b>	<b>111</b>	<b>94</b>	<b>75</b>	<b>72</b>	<b>96</b>	<b>107</b>



# キャリア教育導入の経緯

平成18年度策定／平成19年度から実施

## それまでの指導は…

- 朝8時から20分の朝学習
- 土曜学習（月2回程度）
- 補習や添削指導  
（放課後・レベル別・考査前）
- 長期休業中の補習
- 3年生への個別小論文指導  
（全職員で分担）
- 難関大対策  
（添削指導や昼休みの講座）
- 教科面談

進学実績  
漸増の一方で…



- 大学進学に対する目的意識の希薄化
- 将来へのビジョンを描けない生徒たち
- 受け身な学習への姿勢
- 偏差値重視の進路指導や与えるだけの指導に対する限界感

**指導の改善、将来構想検討の必要性**

## キャリア教育計画の策定と方向性（ねらい）

- 将来構想委員会にて検討（校長・教頭・各分掌主任・若手教員で構成）
- 全職員によるグループディスカッションや生徒会との意見交換会
- 保護者及び同窓会へのアンケート調査



方向性として

- 生徒に「大きな夢と高い志」を持たせ、自己の可能性に挑戦する気概を育む。
- 明確な目的意識により、学習意欲の向上と自発的学習態度を促す。
- この取り組みが生徒・職員のモチベーションを高め、学校を変える起爆剤となることを期待。

この取組全体を **「Will Project」** と命名





# Will Project 構造図

## 夢・志

夢を求めて

ライフプラン  
Will プラン

夢を叶えるために



基本的な学習



## Will Projectの具体的な取組

# 「人を育てる」ことを明確に意識した、人づくりのシステム化

### ■指導の柱

- (Ⅰ) 基本的な生活習慣を確立する
- (Ⅱ) 自他を知り、社会を知ることで学びの意欲を高める※
- (Ⅲ) 学習指導の改善
- (Ⅳ) 文武両道の堅持
- (Ⅴ) 生徒による自主的活動の奨励 (H23年度追加)

※文部科学省「高等学校におけるキャリア教育の在り方に関する調査研究推進指定校」(H19~H21)



## Will Projectの具体的な取組

### 1年生

#### 社会を知り、夢を育む

「聴く・調べる・表現する」

- 社会人講話（5回）
- 職業研究
- 学部学科研究
- ライフプラン作成

### 2年生

#### 自分を知り、 志を確かなものにする

「体験する・調べる・表現する」

- インターンシップ
- 大学研究
- 出前講座
- Willプラン作成

### 3年生

#### 挑戦する気概を育てる

- 進路講話
- 進路別学習
- 小論文指導

「社会人講話」「ライフプランニング」「全員インターンシップ」が大きな特徴

▷実施3年目（H21～）からは、原点回帰で授業改革に着手。「目標達成型の授業」への取組。  
すべての教育活動を通じて、キャリア教育を。ベースは授業。



## Will Projectの具体的な取組：社会人講話

	ねらい	講師
第1回（5月）	働くということについて考えるきっかけを作るため、生徒にとって身近な大人である保護者の講話を聞く。	保護者12名 勤務先：旅行会社、電力会社、病院、薬局、教育機関など
第2回（6月）	世界的な視野を持ち、グローバル化に対応できる心構えを育てる。	外務省南部アジア部東南アジア第一課事務官
第3回（9月）	身近な職業を志望しがちな生徒に様々な職業があることを知らせるとともに、何のために働くのかという「志」を考えさせる。	フォーラム21「梅下村塾」第20期メンバー7名 勤務先：三井不動産、日本生命、東レ、セコム、NTT 電通、本田技研工業
第4回（11月）	世界で活躍する本校卒業生からのメッセージにより、自己の可能性を実感させる。	野村資本市場研究所研究部長
第5回（12月）	やりがいや使命感、働く意義を深く考えさせ、望ましい職業観や人生観の育成を図る。	生徒の希望職業をベースとした社会人25名 職種：政治家、弁護士、医師、看護師、銀行員、新聞記者 薬剤師、エンジニア、教員、市職員、通訳など



# Will Projectの具体的な取組：インターンシップ

## インターンシップ指導の流れ（平成19年度）

期日	内容
4月上旬	事業者交渉・一次依頼文書発送
4月中旬	進路希望調査：実施先調査
5月上旬	講演「インターンシップの心構え」
5月下旬	インターンシップ実施上の諸注意
6月下旬	実習場所の最終確認と諸注意
7月上旬	保護者への通知・参加同意書配付
7月上旬	担当教員と生徒の顔合わせ
7月中旬	担当教員による各事業所との打ち合わせ事項伝達
7月中旬	マナー講習会
7月20日	インターンシップ出発式
7月23～25日	インターンシップ実施
7月26日	実施報告・礼状発送
8月下旬	実習報告書完成
9月上旬	クラス内発表
9月中旬	学年発表会（1年生も参加）

## インターンシップ実習例（平成20年度）

事業所名	体験内容
能代市立東雲中学校	補充学習、部活指導補助等
能代市立図書館	カウンター業務、書架整理
能代山本広域市町村圏組合能代消防署	訓練、礼式、車両点検等
秋田県立大学木材高度加工研究所	研究実験の演習
秋田県スポーツ科学センター	受付業務、体力診断
宇宙航空研究開発機構能代多目的実験場	研究実験の補助
国際教養大学	講義傍聴、文献調べ
たけくま動物病院	診察券学、犬舎清掃等
北羽新報社	新聞編集作業
秋田社会保険病院	各科業務、検査機器取扱
日本航空インターナショナル秋田空港所	業務説明、体験
リリコイラスト工房	イラスト作成演習
大森建設	現場実習等
キョーリン製薬能代工場	製薬業務説明、工場見学等
独立行政法人国際協力機構（JICA）	施設見学、体験





# Will Projectの成果と課題

## ■ 活動成果の分析

▷ 評価シートによる「自己効力感」の測定

自己効力感とは…

「自分が適切な行動をできるという確信の度合い」

▷ 3年間同じ項目で実施し、経年比較

▷ 分析はアドバイザーに依頼 (リクルートワークス研究所 辰巳哲子氏)

## ■ データ分析から

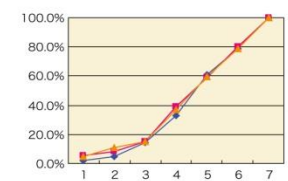
○ ほとんどの項目で自己効力感が向上

○ 生活分野は平均的に高く良好

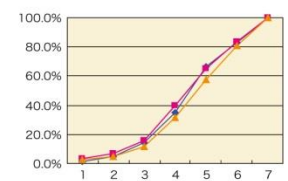
○ 進学に対する期待感、将来のプランニング能力が向上

▲ 2年次の小論文・体験を活かす項目が伸び悩み

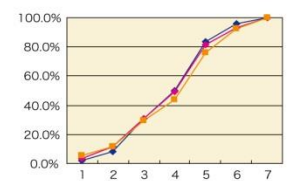
▲ 積極的な学習姿勢や学習スキルに関してはあまり向上せず



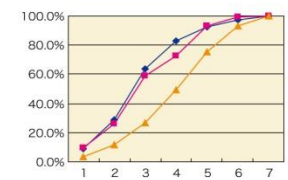
話し合いの場で自分の意見を述べることができる。



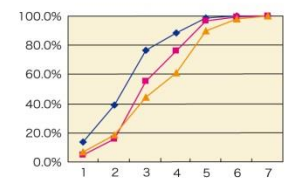
話し合いの場で、たいていの場合にははっきりと意見を主張する。



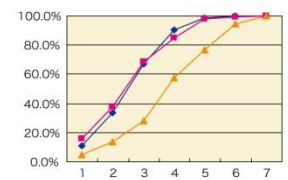
話し合いの場で、意見が対立したときでも自分の意見をはっきりと述べるができる。



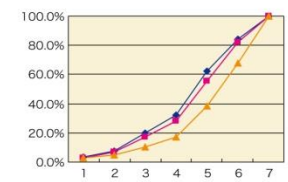
小論文の課題に出題されそうな、話題や出来事に関心を持っている。



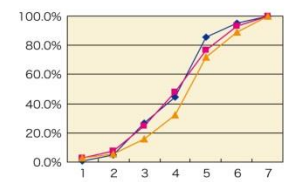
小論文の構成の基本(用語や考え方)を知っている。



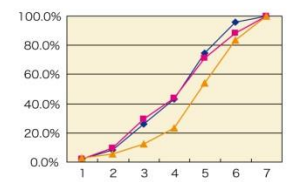
志望校の小論文に取り組み、類似する問題に挑戦する。



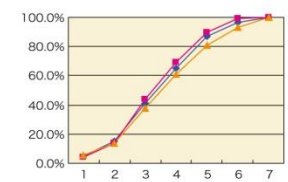
自分の夢や志をもつ。



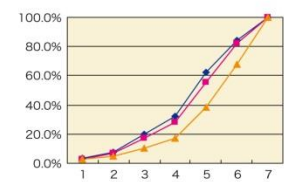
社会の現実を踏まえながら、夢や志を実現する方法をみつける。



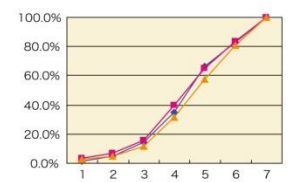
夢や高い志を、実現させようという強い意志(気概)をもつ。



学習と部活動との両立を目指し計画性を持って活動する。



部活動を通して、自分の心身を鍛えるよう努力する。



部における各種の活動を通して心身を鍛え、人としてさらに更に大きく成長する。

横軸 / 1:非常に自信がない 2:自信がない 3:あまり自信がない 4:どちらでもない  
 5:少し自信がある 6:自信がある 7:非常に自信がある  
 縦軸 / 各学年の人数に対する割合(累積度数表示)



## Will Projectの成果と課題

### ■ 生徒の様子や結果から

- 自分自身を見つめ直す機会が増え、自己理解が進む生徒も
- 体験学習やインターンシップには意欲的に取り組む姿勢、活動後の高揚感がその後のモチベーション向上に
- 進学する目的意識の向上、真剣に考えた上での大学進学進路目標達成への粘り強さ
  - ▷ **推薦・AO入試による国公立大学合格者数増加**
  - ▷ **難関大学への合格者数増加**
- ▲ 様々な場面における自己決定感の更なる必要性
- ▲ 学習意欲と学習行動の不一致
- ▲ 多忙な生徒、様々な活動とのバランス



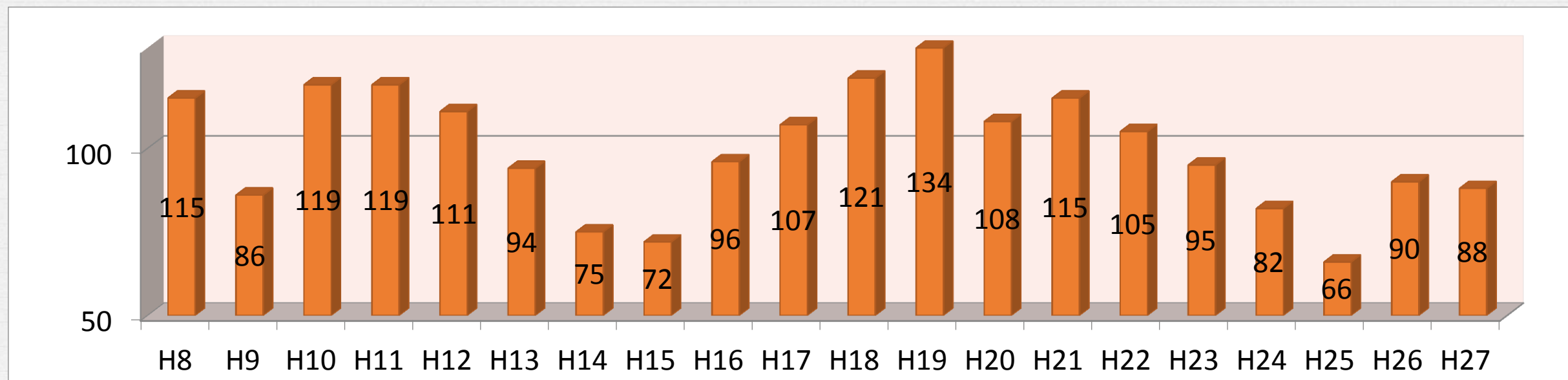


# Will Projectの成果と課題

「Will Project」の成果は実績に反映されているのか？  
 実施前後の数年間、学習指導も徹底していた？

## 国公立大学合格者数の推移

	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
卒業者数	318	289	288	271	278	293	286	262	283	274	277	234	227	<b>226</b>	231	221	232	215	222	232
国公立大合格者数	115	86	119	119	111	94	75	72	96	107	121	134	108	<b>115</b>	105	95	82	66	90	88
難関大学合格者数	<b>11</b>	<b>3</b>	<b>11</b>	<b>9</b>	<b>10</b>	<b>3</b>	<b>10</b>	<b>9</b>	<b>6</b>	<b>11</b>	<b>8</b>	<b>12</b>	<b>7</b>	<b>11</b>	<b>9</b>	<b>13</b>	<b>6</b>	<b>5</b>	<b>3</b>	<b>4</b>
推薦・AO合格者数	6	2	11	6	6	7	7	11	8	8	21	38	23	<b>34</b>	23	29	30	20	23	25





## 「Will Project」のその後 ~10年目のWill Project~

### システム上の問題

- 制度疲労
- 職員の多忙感増大
- 消化行事化
- イベント型の限界
- 運営組織の問題

### 生徒・環境の変容

- 「やらされ感」
- 「安定志向」
- 模試成績低迷
- 進学実績低迷

### 職員の意識の変化

- 「やらされ感」
- 人事異動
- 価値観の継承・共有
- 成果の不可視性
- 手段の目的化

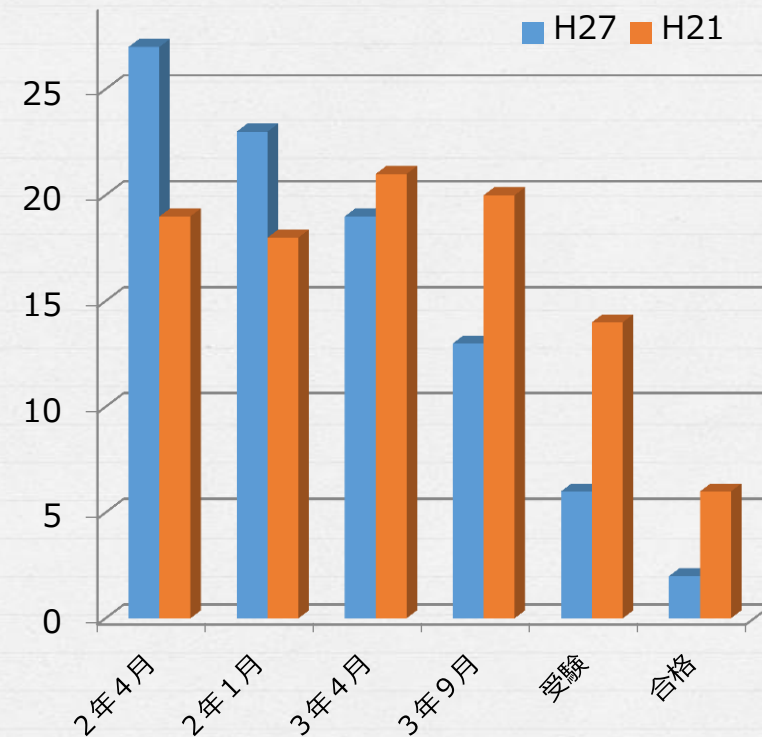
**大幅なスリム化と、学年裁量権の拡大**

# 「Will Project」のその後 ~10年目のWill Project~

## 難関大志望者数推移の比較 (H21生vsH27生)

		2年4月	2年1月	3年4月	3年9月	受験	合格
難関	H27	42	29	23	14	9	4
	H21	31	33	35	27	21	11
東北大	H27	27	23	19	13	6	2
	H21	19	18	21	20	14	6

東北大志望者数推移



「自己の可能性に挑戦させる気概を育む」システムに問題？  
 ▷ 「学力」や「自己と向き合う機会」の担保の問題？



## 「Will Project」のその後 ~10年目のWill Project~

### 大きな課題

大幅なスリム化と学年裁量権の拡大により課題がより鮮明に

- キャリア教育に対する不十分な共通理解
- 体制の問題と活動全体の内部化
- 一層の「イベント化」や、指導の連続性の希薄化
- 視野を広げる過程の欠如による作業化への危惧
- 不十分な「学力保証」



## 「Will Project」を振り返る

### 能代高校時代の経験と卒業後のキャリアに関するアンケート

- 調査対象 能代高校を2004年～2009年に卒業した者（1514名）
- 調査方法 郵送法
- 調査期間 2015年12月25日～2016年1月18日（2月9日まで延長）
- 回収結果 337名（回収率22.3%）
- 調査実施者 リクルートワークス研究所（辰巳哲子氏）・能代高校



# 「Will Project」を振り返る

専門学校・短大・高専・大学時代、以下のことはどのくらい明確になっていましたか。

		平均	
学年		w/o career education	w/career education
高等教育_入学時点	自分の強み	2.43	2.50
	自分の興味・関心	2.81	2.93
	就職志望先業種	2.65	2.56
	世の中・社会への貢献の仕方	2.31	2.35
高等教育_卒業時点	自分の強み	3.05	3.12
	自分の興味・関心	3.23	3.39
	就職志望先業種	3.14	3.32
	世の中・社会への貢献の仕方	2.74	3.05 ***

\* $p < .05$ 、\*\* $p < .01$ 、\*\*\* $p < .000$

引用：辰巳哲子，キャリア教育の長期的効果，第三屆兩岸四地學校輔導國際學術研討會，2016年7月



## 「Will Project」を振り返る

就職先を選ぶ際に以下のことはどの程度重視しましたか。

	平均		
	w/o career education	w/career education	
仕事内容	3.11	3.17	
給与や労働時間	3.01	3.10	
社会貢献	2.60	2.81	
企業理念	2.24	2.34	
キャリア展望	2.29	2.53	** * $p < .05$ 、** $p < .01$ 、*** $p < .000$

引用：辰巳哲子，キャリア教育の長期的効果，第三屆兩岸四地學校輔導國際學術研討會，2016年7月



# 「Will Project」を振り返る

高校時代の教育、生活にどの程度満足していますか。

	平均	
	w/o career education	w/career education
授業科目の教え方	2.70	2.79
部活動	2.94	3.03
進路指導	2.52	2.65
友人との出会い	3.34	3.48
先生との出会い	2.96	3.25 ***
		*** $p < .01$

引用：辰巳哲子，キャリア教育の長期的効果，第三屆兩岸四地學校輔導國際學術研討會，2016年7月





「Will Project」を振り返る

「大きな夢と高い志」の育成

「キャリアプランニング」能力の養成

「教員との出会い」の高い満足度

高校卒業後、大学時代、社会に出た後にこそ、キャリア教育の成果が現れてくる



## 「Will Project」を振り返る

Q：あなたが進路を決定するまでに、「なぜその進路を選んだのか」、高校の先生から成績以外の理由を訪ねられたことはありますか。

「Will Project世代」の方が、  
圧倒的に「ある」という回答の比率が高い。

**「教師（学校）」と「生徒」の関わり方**  
**「教師（学校）」の姿勢と覚悟**



## 「Will Project」を振り返る

「Will Project」という取組にはどんな意味があったのか？

現行の「Will Project」において、前述の成果が得られているのか？

「大きな夢と高い志」は？ 教師との出会いの満足度は？

このアンケート結果や取組の成果をどう捉え、どう発展させていくべきか？

高校教育フォーラム  
実践レポート①

能代高校のキャリア教育を振り返る

秋田県立能代高等学校  
教諭 吉田英亮  
平成28年8月7日